

第3章

実地調査結果

- 3—1 門真市役所
- 3—2 おおわだ保育園
- 3—3 下関市役所
- 3—4 のあ保育園
- 3—5 村山中藤保育園「櫻」
- 3—6 武蔵村山市立第一小学校
- 3—7 認定こども園品川区立五反田保育園
- 3—8 品川区役所

※実地調査を行った順に掲載

3-1 門真市役所

(1) 概要

実地調査日時	平成22年10月5日（火） 13時10分～14時10分
ヒアリング対応者（施設側）	門真市福祉推進部保育課 他

(2) 市の紹介

大阪市内から電車で20分程度と利便性がよい門真市は、電器産業やプラスチック製造の会社が多く所存しているところです。

人口は約13万人、そのうち就学前の乳幼児は約6,000人です。保育園は、公立3園、私立14園。15校ある小学校の空き教室を利用した放課後児童クラブ（学童保育）が私立保育園に委託されています。

(3) ヒアリング内容

a) 保育要録作成のための取り組みについて

現場の声を反映させるため、公立園長会、私立園長会で検討をしたそうです。

b) 保育要録の様式や記載についてどのような検討をなされたか

要録（案）を全園で記載してみるなど、国から示されたものを基本として、公立園長会、私立園長会で検討した後、本課で様式が策定されました。

c) 保育要録の送付の実態について

公立、私立ともに同じ流れで送付しています（資料1）。

d) 管轄の保育所や小学校への周知・説明について

周知・説明のために、保小で合同研修会を行ったそうです。

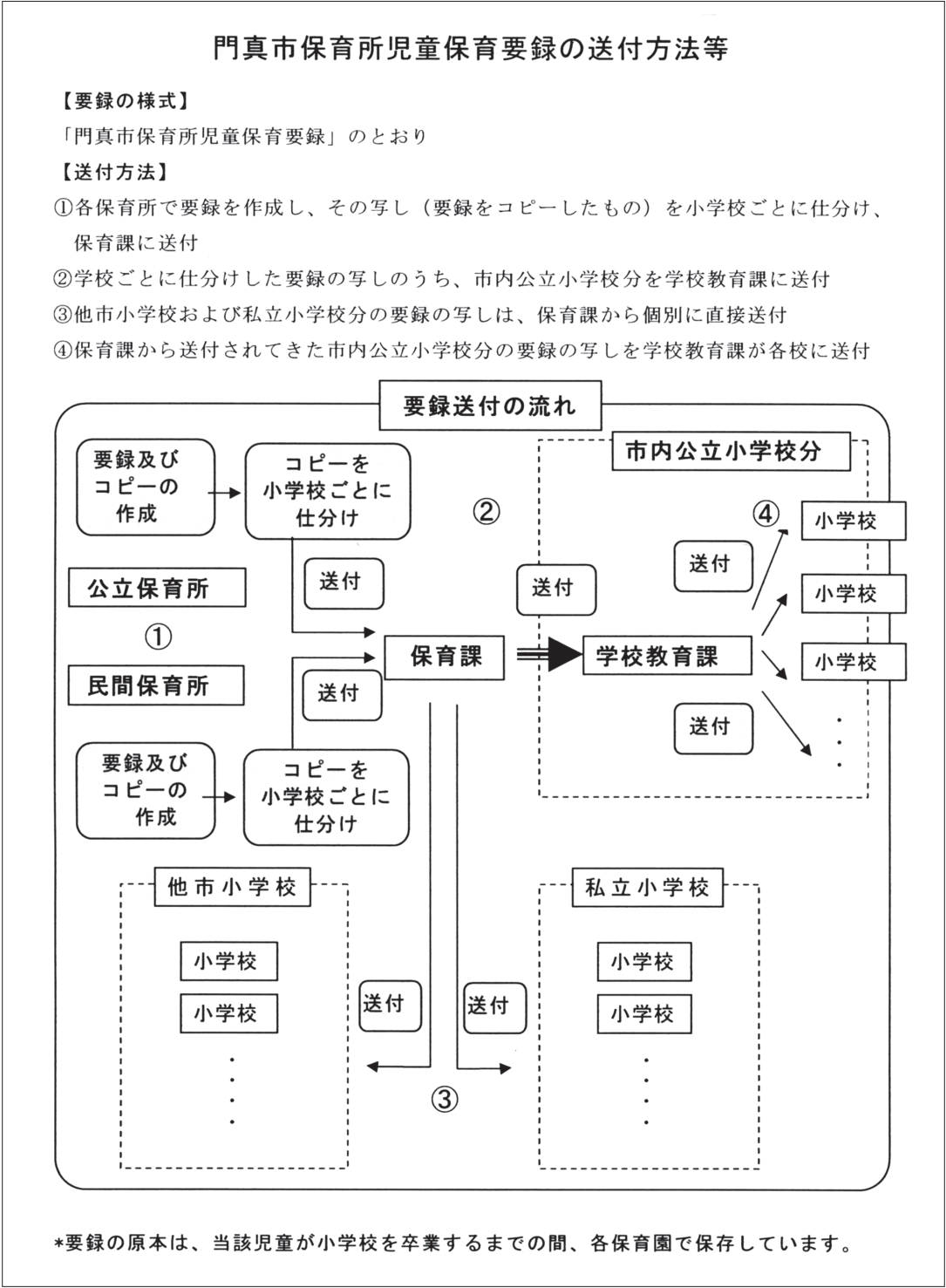
e) 保育要録の活用やこれを核とした保小連携のあり方や課題について

特別支援児との交流が定期的に行われるなど、必要に応じて学校から子どもの様子を見に来ることもあります。まだ、全園＋全校の取り組みにはなっていませんが、要録の提出が現場で

のつながりを後押しし始めているそうです。

(櫛田 薫)

資料 1



3-2 おおわだ保育園

(1) 概要

実地調査日時	平成22年10月5日（火） 14時30分～17時00分
ヒアリング対応者（施設側）	馬場耕一郎園長 佐藤智穂主任保育士

(2) 保育園の紹介

おおわだ保育園は門真市の中央に位置し、0歳児から170名の園児が快適な環境の中で過ごしています。

遊び心いっぱいの保育園には、従前の概念を見事に払拭したオープントイレがあり、子どもの力量に応じた排泄の自立が進みます。保育者にとっても、子どもの育ちをしっかり見通せる環境になっています。

また、ログハウス2F（1Fは0歳児室）にある図書室&おもちゃ室には、系統的に書籍とおもちゃが配置されていて、保育者のアイデアが生み出す「保育のわくわく感」が伝わってきます。

住宅地にありながら園庭や畑を使って野菜作りや稲作まで体験でき、子どもたちの笑顔があふれる保育園です。

(3) ヒアリング内容

a) 保育要録作成のための取り組みについて

市の要請に応じて、全園で取り組みをしたそうです。

b) 保育要録の様式や記載についてどのような検討をなされたか

馬場園長が中心となって私立保育園をとりまとめ、共通の認識で記載できるように勉強会を開催したそうです。

20年度からは、提出はしないまでも保育要録に慣れるために、「実際に書いてみて手直しを行なう」取り組みを始めたそうです。例えば、家庭が抱える問題などをどこまで記載できるかなどといった例を挙げ、実際に記入・検討することによって、保育要録のもつ意図性を明確にしていってと伺いました。

c) 保育要録の送付の実態について

市の決定に則り提出しているそうです。

d) 管轄の保育所や小学校への周知・説明について

保小合同の研修会に参加したそうです。

e) 保育要録の活用やこれを核とした保小連携のあり方や課題について

おおわだ保育園には、15校ある小学校のうち5小学校の放課後児童クラブが委託されています。担当するスタッフは、おおわだ保育園から出向するので、小学校内には、保育園と同じユニフォームを着用した保育者が常駐することになります。

見覚えのある保育者がいることで卒園児に安心感が生まれ、また、教師との情報のやり取りも素早く正確に行え、保小連携に大きな効果をもたらしたそうです。なにより、子どもの育ちをつなぎ合わせることが容易になったということを伺いました。

f) まとめ

おおわだ保育園では、平成15年から小学校との連携が始まっています。

きっかけは、卒園児の問題行動を何とか理解したいという小学校側からのアクションでしたが、保育園側はすぐにそれに応え、情報交換を重ね続けました。初めは校長と園長の懇談でしたが、授業の様子を見に行ったりする中で互いの理解が深まり、卒園児の状態も落ち着きを見せたそうです。「情報交換→行き来すること」の大切さをお互いに実感できたことは、大きな財産となったそうです。

その後も積極的に連携が図られました。現在では学期ごとに低学年の教師との懇談会を開催し、保育園と小学校の指導方法に一貫性が持てるまでになっていると伺いました。

「連携することで教師の幼児理解が深まり、子どもの育ちを共有する事が可能になる」、まさしく「互恵性」です。

21年度には、保育園、小学校の垣根を越えて地域の核となる12年保育宣言を行ったと伺いました。「0歳から12歳までのケアを行う」心意気です。

これらの取組がおおわだ保育園のみで終わってしまうのではなく、全保育園・全小学校に広がっていけば、門真市全体が「保育要録のやりとりだけでは見えにくい、子どもの実態を中心に据えた連携」を可能にしたいと思います。

(櫛田 薫)

3-3 下関市役所

(1) 概要

実地調査日時	平成22年11月1日（月） 13時10分～15時00分
ヒアリング対応者(施設側)	下関市福祉部こども課、下関市保育要録策定委員会 他

(2) 市の紹介

本州最西端に位置し、海に開かれ、豊かな自然と歴史に恵まれている下関市。まちづくりの基本理念「自然と歴史と人が織りなす交流都市」の実現に向けて、自然と歴史の資源を有効に活用したまちづくりに取り組んでいます。

- ・平成17年2月13日1市4町の合併。同年10月1日、中核市としてスタート。
- ・人口285,243人、世帯数130,497世帯…平成23年12月末日現在。
- ・面積716.14平方キロメートル…東京山手線の内側くらいの面積。
- ・海峡と歴史の街…壇ノ浦の合戦、坂本龍馬ゆかりの地、関門海峡、前田砲台、龍馬の妻が居住。

(3) ヒアリング内容

①保育所園児保育要録策定委員会での経緯

保育所保育指針改定により、保育所児童保育要録の様式を市で策定することとなり、保育課と下関市保育連盟で保育所児童保育要録策定委員会を編成。

- ・平成21年4月 保育要録策定委員会9名でスタート。月1回程度、検討を進める。
- ・平成21年7月・8月 市教育委員会を通して市内の小学校教務主任を集めて検討会を開催。
- ・平成21年9月中旬 様式完成。
- ・平成21年9月・10月 保育士向けの研修会を実施。
- ・平成22年2月 教育委員会指導主事及び小学校教務主任会（53名）へ保育所児童保育要録と記入マニュアルを配布。

②保育所児童保育要録の内容を検討するにあたり、前もって現場で書いてみたことが、とても参考になった。

- ・策定委員メンバーより原案を作成・提示し、策定委員の園で実際に記入してもらった。
- ・原案を使っただけの実際の記入により、配慮してほしい点、難しい点について話し合い、さらに

子どもの姿が想像できる要録を作成するための検討をした。また保育士にも過度の負担にならないもの、みんなが関われるものをと考慮。

③様式策定までにこだわったことは、現場からの声を反映するために記入マニュアルを作成したことである。

- ・子どもがどんな育ちを経てきたのかが分かることを心がけた。
- ・入所したときからのことを記入できるようにした。但し余分なことは書かない。是非知っていてももらいたいことのみ記入。子どものプラス面を見てもらえるようにした。発達の連続性にも留意している。
- ・どんなものが小学校で使ってもらえるのかを想定し、幼稚園との共通性、視点の共有化をした。結果として、マニュアル及びマニュアル別冊が大変助かった。
- ・保育所児童保育要録は、クラス編成のための資料ではなく、しっかりと説明することにより、子どもを如何に大事にしているのかを分かってもらうためのものであると考えている。
- ・保育所児童保育要録はどうしても「評価」と捉えがちだが、保育園側としては「その子をよく見てほしい」という願いのもと、保育所児童保育要録の記入にあたった。
- ・小学校側は、保育所保育指針の改定及び要録の送付されていることを知らないことから、様々なコンタクトの機会を持った。

④「保育所児童保育要録（下関市版）に関するアンケート」を実施した。

- ・初めての実践（昨年）をきちんと振り返るために、アンケート（対象は保育所、保育所児童要録を受け取った小学校側の反応も言及）を実施。

⑤質疑応答の実際（質問＝Ｑ、回答＝Ａ、提案＝Ｓ）

【小学校への送付の実際】

Ｑ 要録の提出方法についてお伺いします。

Ａ 手渡しと郵送で行いました。３月１０日までに渡すことを小学校に予告していました。実際には、提出が遅れた園もあります。小学校からは、もっと早く２月中にほしいとリクエストがありました。

多くの幼稚園では、これまで指導要録を送っていないということが明らかになり、来年度から提出の予定です。但し、提出は３月２０日以降になる見込みです。それは、出席日数の記入が必要なため、幼稚園の卒園式以降の提出とのことでした。

Ｓ 小学校側としては、保育所、幼稚園が足並みを揃えて提出していただけると非常に助かるようです。２月に提出するのは厳しいと思いますが、できる限りそうしていただきたいです。

【保護者への周知の実際】

Q 個人の記録が詳しくなると、個人情報保護についての留意が必要になることが予想されます。保護者への事前承諾は、どのようにされていますか。

A 公立保育園では、共通の入園のしおり等で説明しました。要録は成績表ではない。その子の育ちについての記録とも話しています。

A 公立保育園では、市の個人情報保護省令に基づいて実施しています。私立保育園では、個人情報保護法の例外規定での取り扱いです。記述内容までは説明していませんが、保育所児童保育要録として小学校へ提出していると保護者へ説明しています。

※ 保護者の了解がなければ障害があるとは書いてはいけません。必要以上のことは書けない。発達障害等（グレーゾーン）についてはまだ結論が出ていない。

【小学校のクラス編成】

Q 要録の活用として、クラス編成資料とのお考えはありますか。

A 小学校のクラス編成だけのための資料とは考えていません。実際にクラスを受け持った担任の先生に読んでいただきたいと考えています。

S 東京都品川区では、小学校が余裕を持って見ることが出来るようにと、これまでの取り組みを変えました。小学校で生かされるような時期（2月まで）に提出をと考えています。

※ 下関市では、保育所児童保育要録の作成送付以前は、学校現場と意見交換の場を設けていました。但し、職員の交流までは至ってはいません。要録を交流のツールとして、深めてほしいと考えています。

Q クラス編成だけのためではないとなれば、何が主目的でしょうか。

A 目的は、保育園で「子どもが友だちや大人と関わった濃い関係の中での育ち」を記入して、小学校へ伝えるということです。保育園には少人数で家庭的な雰囲気があります。そこには、長い年月を過ごしてきた友だちや大人との濃い関わりがあります。小学校では「児童と教師」の関わりで終わるのではなく、子どもの育ちをしっかりと見て、しっかりと関わってほしいと思っています。例えば、落ち着きのない子を落ち着きのないと見なすだけではなく、関わり方次第でその子の良さが出てくる、小学校においてもスムーズに生活の場を移行することができるということを知ってほしいのです。

【先入観を持たないでほしい】

小学校との距離そのものが遠い地域もあります。この保育所児童保育要録を、入学してくる子どもより小学校側で先に見れば、必ずしもプラスにはならないこともあると考えました。ですから、教育の部分だけではない、「子どもの育ちに関わる部分」として生活環境を記述する

ように心がけました。いろいろなバイアスがかからないようにと願ってのことです。

小学校と保育園の就学前と入学後の情報交換の機会があります。学校によっては、10月には入学予定児を招待して体験活動を実施しています。

【その他】

Q この保育所児童保育要録を、いつまで読んでほしいと思っていますか？

A 中学年で読まれることも想定はしています。

S これだけの情報があれば、しっかり読むし、必要なときにいつでも読むでしょう。

A まだまだ完成していない様式ですので、研修会を継続して保育者のレベルの向上を図りたいと思っています。

S これだけ熱心に取り組んでいるわけですから、小学校へ積極的に働きかけていてよいのではないのでしょうか。

A 市としても、教育委員会主催の小学校と保育園・幼稚園の交流保育、公開保育、研究会や合同研修会が実施されています。これから更に充実を図っていきたいと思っています。

(福島義信)

3-4 のあ保育園

(1) 概要

実地調査日時	平成22年11月1日（月） 15時15分～18時00分
ヒアリング対応者(施設側)	田中和夫園長、田中浩二副園長 他

(2) 保育園の紹介

下関市内で、海や雑木林に囲まれた中、子どもたちが四季の自然を十分に体感出来る場所に、白い園舎があります。

平成12年度、ユニークなログハウスが建ち、乳児の保育室に、また、子育て支援スペースとして活用しています。毎月、未就園児対象の育児支援（すくすくくらぶ）、ファミリーサポートの親子教室があります。

【保育方針】

- ① 十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を適切に満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。
- ② 健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと。
- ③ 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にする心を育てるとともに、自主、強調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。
- ④ 自然や社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の基礎を培うこと。
- ⑤ 生活の中で、言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり、聞いたりする態度や豊かな言葉を養うこと。
- ⑥ 様々な体験を通して、豊かな感性を育て、創造性の芽生えを培うこと。

以上の保育目標を通して、一人一人の個性を尊重した保育の中で意欲（勇気）と思いやりの心を養う環境としています。

＊ 生後6ヶ月より就学前の保育、子育てサポート『すくすくくらぶ』、一時保育、お年寄りとのふれあい・交流、園庭開放、絵本の貸出。入所定員120人。

(3) ヒアリング内容

a) 保育要録作成のための取り組みについて

田中副園長が、下関市保育要録策定委員会メンバーとして、原案作成に携わりました。ここでは、以下のような事柄について保育要録作成についての留意点が示されました。

- ・子どもが保育所から小学校へスムーズに生活の場を移行できるようにする。
- ・保育所で蓄積した子どもの様子を小学校と共有することを目的とする。
- ・保育要録は、子どもに関する必要な情報を適切かつ分かりやすく記載する。
- ・市町村単位で共通の様式を用いるため、送付先となる小学校には様々な保育所から同じ様式の保育要録が集まります。そこでは保育所（または保育士）が異なっても同じ視点で保育要録が作られていることが大切。

保育所児童保育要録（下関市版）（以下、保育要録（下関市版））では、保育要録の趣旨に基づき、より一層子どもの様子を的確に伝えることができるように、またそれぞれの保育所で行われている保育の特徴などによって培われた子どもの育ちを、小学校へと伝達ができるよう配慮しています。

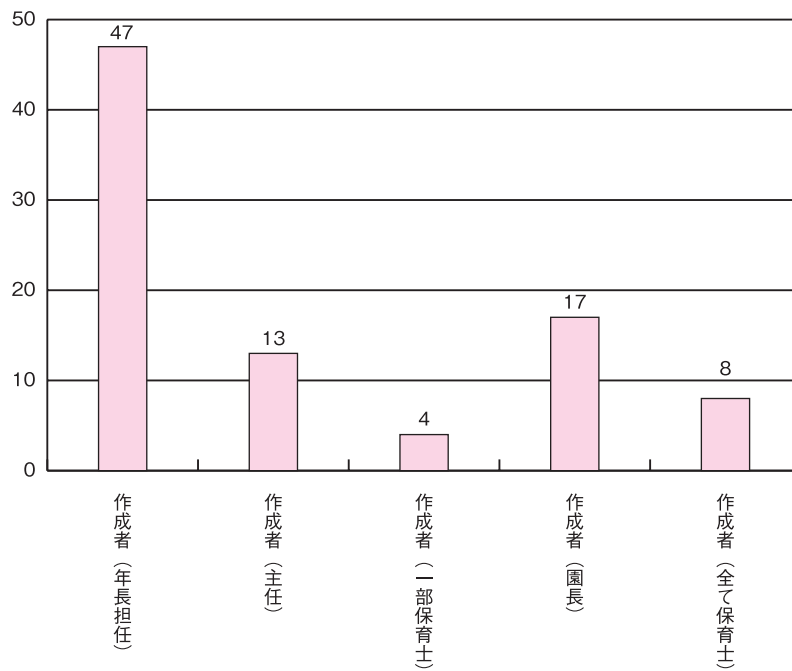
一方で、保育要録（下関市版）のみで子どもの育ちのすべてを表現し、小学校へ伝達できるものではありません。前提として、保育所と小学校の継続的な情報交換や連携、相互理解に基づいた上での保育要録の送付が大切であるとともに、このことが子どもの利益につながってきます。

この保育所児童保育要録（下関市版）記入マニュアルや保育要録（下関市版）が、子どもの利益に配慮した小学校へのスムーズな移行や、保育所と小学校の連携や相互理解の一助となることを願っています。

b) 保育要録作成後、保育士へのアンケート調査結果

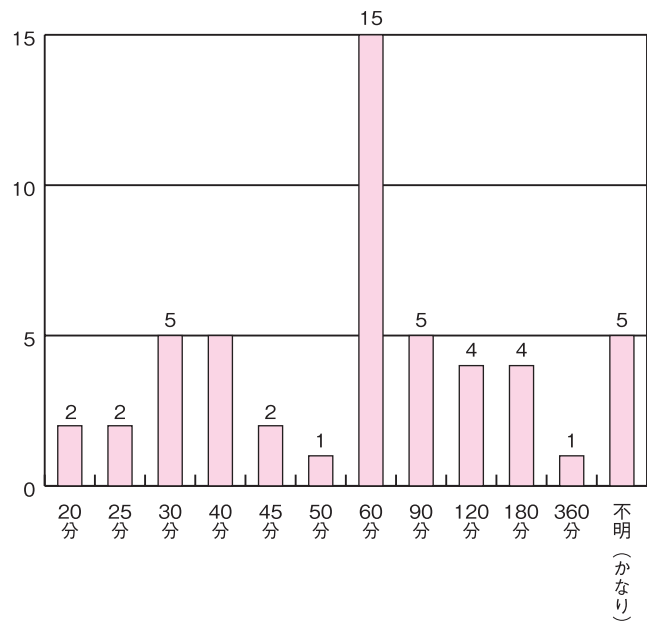
初めての保育要録作成・小学校への送付を終えた後、各園に作成後のアンケート調査を実施しました。

1. 保育要録の作成はどなたが行いましたか？作成に携わった人を選択してください(複数可)



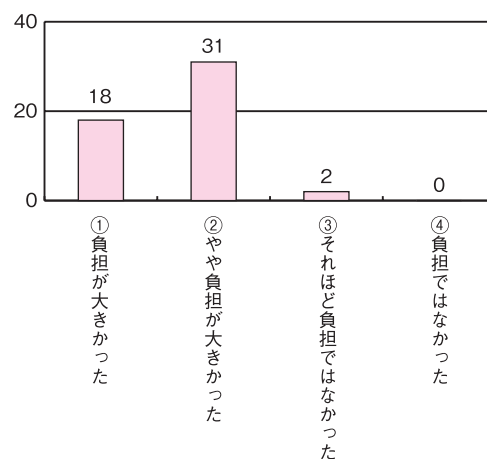
2. 1人分の記入について概ねどの程度の時間を要しましたか？

時間	度数	%
20分	2	3.9
25分	2	3.9
30分	5	9.8
40分	5	9.8
45分	2	3.9
50分	1	2.0
60分	15	29.4
90分	5	9.8
120分	4	7.8
180分	4	7.8
360分	1	2.0
不明(かなり)	5	9.8
	51	100.0



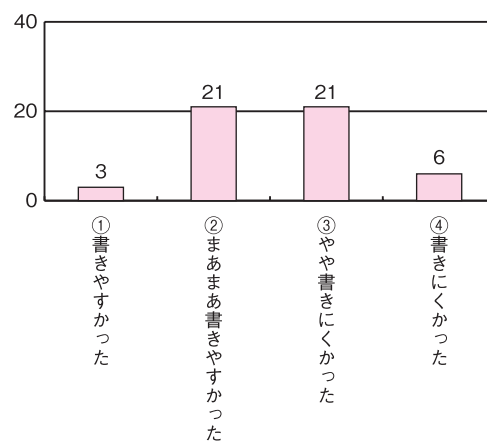
3. 保育要録の作成の負担感について選択してください。

選択肢	度数	%
①負担が大きかった	18	35.3
②やや負担が大きかった	31	60.8
③それほど負担ではなかった	2	3.9
④負担ではなかった	0	0.0
計	51	100.0



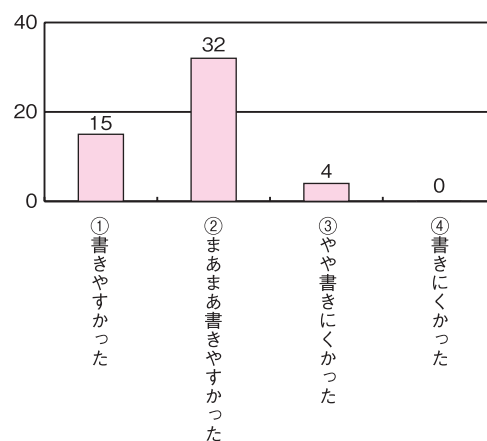
4. 保育要録の「C. 子どもの育ちに関わる事項」を記入した際の書きやすさ及び気づきなどをご記入ください。

選択肢	度数	%
①書きやすかった	3	5.9
②まあまあ書きやすかった	21	41.2
③やや書きにくかった	21	41.2
④書きにくかった	6	11.8
計	51	100.0



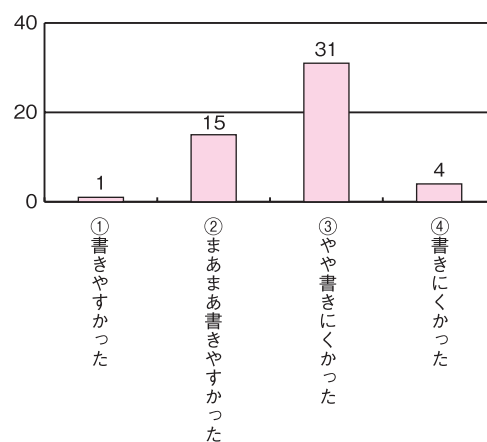
5. 保育要録の「D. 子どもの健康状態等」を記入した際の書きやすさ及び気づきなどをご記入ください。

選択肢	度数	%
①書きやすかった	15	29.4
②まあまあ書きやすかった	32	62.7
③やや書きにくかった	4	7.8
④書きにくかった	0	0.0
計	51	100.0



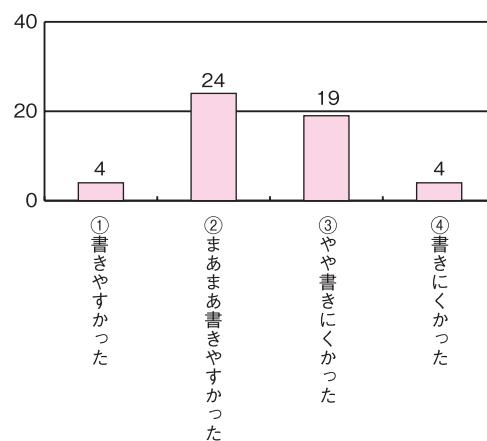
6. 保育要録の「E. 養護に関わる事項」を記入した際の書きやすさおよび気付きなどをご記入ください。

選択肢	度数	%
①書きやすかった	1	22.0
②まあまあ書きやすかった	15	29.4
③やや書きにくかった	31	60.8
④書きにくかった	4	7.8
計	51	100.0



7. 保育要録の「F. 教育に関わる事項」を記入した際の書きやすさおよび気付きなどをご記入ください。

選択肢	度数	%
①書きやすかった	4	7.8
②まあまあ書きやすかった	24	47.1
③やや書きにくかった	19	37.3
④書きにくかった	4	7.8
計	51	100.0



(福島義信)

3-5 村山中藤保育園「櫻」

(1) 概要

実地調査日時	平成22年11月15日（月） 14時00分～16時00分
ヒアリング対応者(施設側)	若山 剛 園長

(2) 保育園の紹介

東京都の郊外の武蔵村山市にあります。武蔵村山市は、都心から30から40キロ圏にあります。西は瑞穂町、南は立川市、東は東大和市、さらに北部は狭山丘陵があります。

市を象徴する狭山丘陵には村山貯水池（多摩湖）、山口貯水池（狭山湖）があります。市街地と畑（茶、野菜、果樹園など）があり、現在まで市内には軌道交通がありませんが、道路は古くから発達し、青梅街道、新青梅街道が主要道路として市内を走っています。

村山中藤保育園は、昭和41年無認可施設として開園、昭和44年に東京都認可の村山中藤保育園として開園いたしました。定員は250名です。平成19年に村山中藤保育園「櫻」に変更し、平成21年より武蔵村山市の委託を受けて、武蔵村山市子ども家庭支援センターを運営しています。

(3) ヒアリング内容

① 保育要録作成のための取り組み

村山中藤保育園「櫻」では、保育要録が徹底される以前から、「児童票」を作成し、進学先の小学校へ送付をしていた実績がありました。これは、幼稚園から「幼稚園幼児指導要録抄本」が小学校に送られているのに保育所から送られていないのはおかしいという前園長の強い思いがあったからです。幼稚園も保育園も子どもの成長の支援に違いはないということを強調していました。今回は、武蔵村山市健康福祉部子育て支援課が中心になって、全市共通の「保育所児童保育要録」を作成したそうです。様式等は、様式の参考例を基に作成をしたそうです。

② 保育要録の送付の実態

保育要録の小学校への送付にあたって、武蔵村山市福祉事務所長名で卒園児の保護者へ次のような文書が配布されました。

平成22年 2 月17日

卒園される児童の保護者の皆様へ

武蔵村山市福祉事務所長

池 亀 武 夫

児童の育ちを支える資料として

「保育所児童保育要録」を小学校へ送付いたします

保護者の皆様におかれましては、小学校への就学を控え、お忙しい時期を送られていることと存じます。

保育所での保育は、「保育所保育指針」に基づいて行われていますが、この度指針の改定に伴い、児童の育ちを支えるための資料を「保育所児童保育要録」として作成し保育所から小学校へ送付することになりました。

保育所では、就学前の児童について、下記の点を取りまとめて「要録」を作成いたします。

- ・入所に関する記録（名前、生年月日、保育期間、保育署名等）
- ・保育に関する記録（子どもの育ち、発達援助等）

以上の点を踏まえ、小学校で生活や学びを支えてくれる先生との連携を図るため、子どもの育ちについて発達の連続性を念頭に置き、子どもの良いところや援助の仕方、保育所での育ち、一人ひとりの良さと可能性を「保育所児童保育要録」としてとりまとめ、保育所から小学校への引き継ぐ資料といたします。

なお、個人情報につきましては、個人情報保護法に基づき厳正に取り扱います。

【問い合わせ先】 以下略

③ 小学校への説明

武蔵村山市立第一小学校の欄で記入したとおり、園長が自ら武蔵村山市立第一小学校へ説明に出向いているそうです。他の小学校にも若干の進学者がいる場合は、全ての小学校に園長は持参をしているそうです。

長い子は、6年間保育所で過ごしてきたわけですから、園長が小学校に出かけて、保育園での様子を説明し、小学校での一人ひとりの個に応じた教育を願う気持ちがよく分かりました。

④ 保育要録の活用と連携

保育要録を渡してそれで終わりという関係でないのが、村山中藤保育園「櫻」と武蔵村山市

立第一小学校との関係です。卒園時が5年生になったときに行われる「夏期保育体験」は素晴らしい取り組みだと感じました。

この体験活動は、保育園と小学校双方の連携関係がなくてはできないでしょう。7月下旬から8月20日頃まで、毎日小学校5年生の児童が5～6人ずつ保育園に来るのです。それも、朝の8時から夕方4時までの体験です。保育園の保育士も小学生の面倒を見ることは大変なはずですが、この活動が20年も続いているのです。

保育要録の活用の問題ではありません。保育園と小学校が一体となって子どもの成長を見守り続けていることに大きな感動を覚えました。

(和田信行)

3-6 武蔵村山市立第一小学校

(1) 概要

実地調査日時	平成22年11月15日（月） 16時30分～18時00分
ヒアリング対応者（施設側）	小野將和校長 他

(2) 小学校の紹介

開校記念日は、大正3年10月1日で、今年開校97年目の歴史と伝統のある小学校です。地域は、東京の都心から30～40キロメートルほどの所で、都心に通勤するには少々時間がかかる地域です。まだ、付近には畑も多く見られます。北側には狭山丘陵があり、狭山茶の産地でもあります。

児童数は353名で、特別支援学級20名（杉の子学級）の、計373名です。教育目標は、「人間尊重と深い郷土愛の精神を基調とし、知性・感性・道徳心や体力を育み、自ら学ぶ意欲、と規範意識を備えた人間性豊かな児童の育成を図り、人間形成としての基礎を培う」で、以下の目標を掲げています。

・進んで学ぶ子 ・元気な子 ・心の強い子 ・やさしい子

また、学校の教育目標を達成するための基本方針の主なものとして、

・思いやりのある心豊かな児童の育成 ・心の教育の推進 ・心身の健康増進及び体力づくりの推進 ・正しく判断し適切に行動できる児童の育成 ・地域・家庭との連携の促進等を掲げています。

子どもたちの心の教育を地域と一体となって推進していることが伺われます。

(3) ヒアリング内容

① 保育所との連携のきっかけ

村山中藤保育園「櫻」とは歴代校長からの引き継ぎで緊密な連携が行われています。小学校から徒歩2～3分の場所に保育園があり、保育園の卒園児のほとんどの子が入学するという条件があります。保育園から小学校への連続した発達や成長を見届け、小学校と連携して育てたいという園長の思いも大きかったと思われます。

② 保育所との連携内容

〔夏期保育体験〕

- ・園児とふれあうことを通して、自分の幼かった頃を振り返り、今までお世話になった人々に感謝の気持ちをもつことをねらいとして、実施しています。
- ・実施時期は、小学校の夏休み中（7月下旬から8月20日頃まで）に行われます。
- ・参加児童は、5年生全員と、希望する6年生です。（1人1日、計90名程度）
- ・内容は、1日保育体験です。（8時～16時）

〔小学校5年生と保育園5歳児の交流会〕

次年度1年生と6年生の関係となる組み合わせで、2月下旬から3月上旬に行っています。

〔小学校教員のボランティア研修〕

小学校新任研修の場としての、3日間の保育研修です。

③ 保育要録の活用について

〔学級編成資料として〕

3月中旬に、村山中藤保育園「櫻」園長自ら小学校へ届けにいきます。勿論それを受け取るのは小学校の校長です。ここで、1枚1枚の保育要録をめくりながら、園児の説明を聞きます。校長も、村山中藤保育園「櫻」とは年間を通して連携をしているため、かなりの子どもの様子はわかっています。

学校側は、保育要録とその聞き取りの結果、就学時健康診断での面接結果、及び他の様々なデータを基に学級編成を行います。このように、保育要録が学級編成に活用されている結果、学習面や運動能力、友人関係等、1組と2組に児童を平均して割り振ることが可能となります。

〔卒業までの随時活用〕

武蔵村山市立第一小学校では、村山中藤保育園「櫻」からの今までの保育要録が、校長室に保管されています。保存期間は、卒業までの6年間です。途中で何か問題があった時など、いつでも閲覧できるようにしてあります。また、保育要録だけでは不十分な場合は、直接、保育園の保育士に出向いて聞き取りをする場合もあります。

園長と校長の考え方が一致していると、保育要録の活用もここまで可能となるという良い事例を聞き取ることができました。小学校の校長は、3年～5年程度で異動になります。校長が替わったら、今までの連携の雰囲気が一変してしまった等という例も少なくありません。これは、公立の保育所にも当てはまります。園長が替わったら連携ができなくなったというような事例です。村山中藤保育園「櫻」は、社会福祉法人立で地域と一体となった保育園ですから、園長の一貫した経営方針には、常に武蔵村山市立第一小学校との連携があります。

また、武蔵村山市立第一小学校では歴代校長が「村山中藤保育園「櫻」との連携」を引き継ぎ、伝統としているところに意義があります。近隣の小学校とこのような関係まで深めていくことは、保育要録のすばらしい活用に繋がっていくということを学ばせていただきました。

(和田信行)

3-7 認定こども園品川区立五反田保育園

(1) 概要

実地調査日時	平成22年12月7日（火） 13時00分～14時00分
ヒアリング対応者(施設側)	櫛田薫園長 他

(2) 保育園の紹介

山手線五反田駅・大崎駅から徒歩圏内にある園であり、周囲にはオフィスビルと高層マンションが林立しています。五反田保育園は、マンションの1階にあります。園近くには川が流れ、比較的静かで日当たりがよい環境の中で保育が行われています。

当初は、保育所として設立されましたが、就学前教育の取り組みをより明確にするために、平成19年9月に認定こども園（保育所型）になりました。現在は128名在籍のうち、4歳以上の8名が認定こども園の在籍です。保育所の長時間保育の子どもと短時間保育の子どもが同じクラスに在籍しています。「0歳児からの学び（育ち）の連続性」を大切にした保育がなされており、近隣小学校との交流も盛んに行われています。

保育所時代は、幼稚園に通う等の理由で途中退園する子どもがいましたが、認定こども園になってからはそのような事例はなくなったと伺いました。

平成11年から朝7時30分から夜間10時までの保育を行っていますが、平成23年からの入園児は、午後8時30分までの保育時間に変更予定と伺いました（但し、在園していた子どもについてはそれまで通り）。

(3) ヒアリング内容

a) 保育要録作成のための取り組みについて

品川区保育課において、取り組みや作成をされたと伺いました。

b) 保育要録の記載について

今までは認定こども園としての要録の書式を使っていましたが、平成21年度より区で作成した書式を使用しているそうです。あらかじめ、要録の記載を見越して、個人評価票（児童票）を作成しているとも伺いました。児童票が指導概要記録を兼ねているそうです。

c) 保育要録の送付の実態について

3月上旬に進学先の小学校に5歳児クラス担任が持参し（5校）、副校長、担任などが受領したそうです。玄関で受け取るだけの小学校もあったと伺いましたが、その場で保育要録に目を通す先生もあり、学校によって対応にかなり差があるということを把握することができました。小学校によっては、副校長が、3人以上入学する児童がいる園を訪問し、保育要録を受け取って子どもの様子を聞くところもあったそうです。

d) 所管の保育所や小学校への周知・説明について

教育委員会・保育課を通して説明が行われたそうです。

e) 保育要録の活用やこれを核とした保小連携のあり方や課題について

日常的に小学校と交流があるので、保育要録は特別なことではなく、連携の1つの手段として位置づけられています。交流を通して、小学校教師が保育士や保育園の子どもと接する機会も多くなっています。そのため、小学校側は、子どもの育ちの実態の認識や園の保育に対する理解があると伺いました。

g) まとめ

五反田保育園では、保育要録を小学校に対して子どもの育ちの姿を伝える手段の1つとしてとらえています。以下のような連携の取り組みを日常的な保育の中で行い、子どもの記録として要録に反映させています。

① 0歳児から小学校入学を見据えた保育の実施

就学するための保育ではなく、幼児期の育ちを発揮することができるような保育を目指しています。午後も活動できるようにと、年中年長の昼寝をなくしたそうです。また、延長保育の時間も短縮する予定のようです（午後10時→8時30分）。

また、子どもを親と共に育て、「親心」を育てることを意識しています。例えば、保育で必要な準備物は、お知らせは前もって行い、持参するまでの期日を幾日か設定するようにしているそうです。こうすることによって、親子の間でのやり取りが以前よりも多くなったと伺いました。

② 日常的な交流の機会

近隣にある御殿山小学校（1～3年）、日野学園（小中一貫校1～9年）と日常的な交流を行っています。9年生が保育実習で来園しています（3日間）。また、5年生が家庭科の授業で園児と一緒に調理する、2年生の生活科の授業としておもちゃを作って遊ぶなど、小学校を訪れて交流授業・保育を行う機会を多く設けています。また1年に2回小学校の給食を食べる

など、小学校への訪問を数多く行うことにより、子ども同士も顔見知りになり、さらには事前に小学校担任が園に来て打ち合わせをするために、保育士と小学校教師が顔を合わせる機会が多くなったと伺いました。

また、交流の際には保育所が「保小連携アクションプラン」を書いて、小学校へ持参をしています。「体験アクションプラン」では〈企画〉〈実施〉〈検証〉として、事前事後に記載するようになり、交流後の〈検証〉では、子ども・保育者のそれぞれのふりかえりを行っています。交流の体験から日常保育に生かすことができる事項を〈明日の保育につなげて〉で確認をしています。

このような取り組みを積み重ねることにより、最近は小学校からも交流の記録が来るようになりました。また、新年度が始まる前に小学校から年間計画が配布され、計画的な交流の取り組みができるようになっています。

③幼・保・認定こども園の保育連携

卒園式を保育所や認定こども園でも同じように行うなど、子どもがどの施設に通っていても、基本となる経験が異なることがないようにと配慮がなされています。

(松寄洋子)

3-8 品川区役所

(1) 概要

実地調査日時	平成22年12月7日（火） 14時30分～15時30分
ヒアリング対応者(施設側)	品川区子ども未来事業部保育課長、就学前教育相談員、指導研修担当主査 他

(2) 区の紹介（区のHPより抜粋改変）

品川区は、東京23区の南部に位置し、東京湾に接しています。住宅・商店街・オフィス街、下町・歴史ある寺社、近代的なウォーターフロントが混在しています。区では様々な取り組みを行っていますが、特に「教育」に力を入れています。

2010年10月には、全国に先駆けて、保育園・幼稚園と小学校のスムーズな接続のために「～保幼小ジョイント期カリキュラム～しっかり学ぶしながわっこ」を作成しました。その内容は、「保育園・幼稚園5歳児の10月から小学校1年生の1学期」をジョイント期とし、「ジョイント期」において育てたい力を「生活する力」、「かかわる力」、「学ぶ力」の3観点・10項目からまとめ、実践ガイドではそれぞれの力の実践例を25事例掲載しています。

保育園・幼稚園では、学校生活を見すえ、「生活する力」「かかわる力」「学ぶ力」の三つの力をバランスよく伸ばすために、例えば保育園・幼稚園では、前を向いて良い姿勢で話を聞かせたり、学びの芽生えとなる保育・教育活動を行ったり、小学校では、保育園・幼稚園での経験を生かし、あいさつや交友関係づくりなどを行ったりと、品川区独自の市民科[※]を中心に指導をしています。モデル実施の結果を踏まえ、10月から本格実施をしています。

また、小・中学校の壁を取り払い、義務教育9年間を通して系統的・継続的な教育活動を行えるように区独自の「小中一貫教育要領」を定め、18年度からすべての区立小・中学校で、小中一貫教育を実施しています。ここでは、市民科や小学校からの英語科、ステップアップ学習などにも取り組んでいます。

※市民科とは、品川区の新たな特別教科。これまで別々に行ってきた「道徳」、「特別教科」「総合的な学習の時間」の本来のねらいや内容を関連づけ、『人間形成』を目的に単元として再構成し、これからの社会で生きていく中で役立つ、正しい認知と具体的な行動を身に付けさせる特別教科。

(3) ヒアリング内容

a) 保育要録作成のための取り組みについて

①保育要録作成委員会を設けて準備

②公私立の保育園長会へ提案

保育園および認定こども園は、同じものを利用することとしました。保育所児童保育要録の内容が保育指針に出された例に準じたこと、記入要項として「保育所児童保育要録・認定こども園こども要録の様式及び取り扱い」を用意し、より詳しく説明したこともあり、支障となることはありませんでした。

③経過

平成21年 6 月	保育要録検討会メンバー決定・依頼（幼稚園・保育園・認定子ども園・保育課）
7 月～ 8 月	案の作成・検討
10月～11月	「保育所児童保育要録・認定こども園こども要録の様式及び取り扱い」案の説明会実施（対象者：公立保育園園長、私立保育園園長、区立保育園副園長・5歳児担任私立保育園・認証保育所の代表者・5歳児担任）
12月	「保育所児童保育要録・認定こども園こども要録の様式及び取り扱い」を各園へ配布。「保育所児童保育要録・認定こども園こども要録」を各園へ配布。

b) 保育要録の記載についてどのような検討をなされたか

保育要録を記入することが初めてという保育者の状況を踏まえ、事例文の入った分かりやすい「取り扱い要項」を作成することとしました。また、この「取り扱い事項」の説明会を実施しました。記載については、子どもの人権を尊重する立場で記述することを確認しています。

c) 保育要録の送付の実態について

公私立保育園は、3月半ばまでに各保育園から各小学校へ持参するか（区内）、または、郵送（区外）するようにしました。

d) 所管の保育所や小学校への周知・説明について

公私立保育園には、園長会や施設長会で説明をしました。

小学校校長会（平成21年12月「『保育所児童保育要録・認定こども園こども要録』の写しの活用について」）や副校長会（平成22年2月「保幼小連携に当たってのお願い」）へ出向き、資料を配布し確認をしました。

e) 保育要録の活用やこれを核とした保小連携のあり方や課題について

現在把握している状況は、公私立保育園・公立幼稚園からは各小学校へ保育要録が送付され、これを元に小学校との連絡協議会が行われ、各小学校では児童個別の参考資料にしたと伺いました。学級編成の資料としては、全員分が一度にそろわない現在の状況では、活用しにくいということでした。

g) まとめ

保育課に元小学校校長の「就学前教育相談員」がおり、巡回指導の際に活用状況を把握しています。

現場では保育要録の他に、就学支援を必要とする子どものための「実態把握票」(教育委員会)や学校によっては「学級編成用資料」を書く必要があるため、今後これらの検討が必要と考えられます。

(松寄洋子)

